

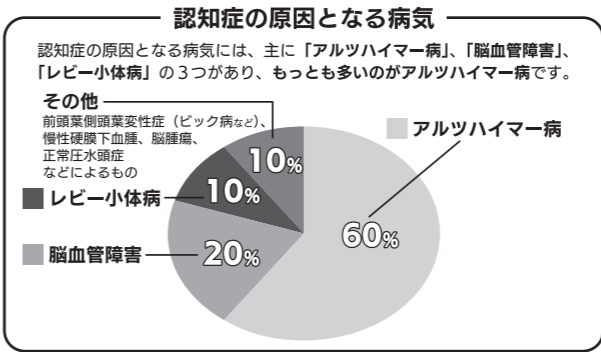
特集

認知症を正しく理解し、地域で共に生きる

認知症とは…

認知症とは、脳や身体の疾患によって脳の神経細胞が減ってしまい、記憶力が大幅に低下する「記憶障害」や時間、場所、人を見分けることができなくなる「見当識障害」、判断力の低下により今までできていたことができなくなるなどの症状が起こり、日常生活を送ることが困難な状態です。

我が国における認知症の人は、2025年には700万人を超えるものと推計されます。東伊豆町においては、介護保険サービスを利用している方の中で、認知症の人の数は501人であり、この数字は65歳以上の約9.1%となります。



老化によるもの忘れ	認知症のもの忘れ
体験の一部分を忘れる	体験の全体を忘れる
記憶障害のみがみられる（人の名前を思い出せない、度忘れが目立つ）	記憶障害に加えて判断の障害や実行機能障害がある（料理・家事などの段取りがわからなくなるなど）
もの忘れの自覚がある	もの忘れの自覚がない
探し物を努力して見つけようとする	探し物を誰かが盗ったと言うことがある
見当識障害はみられない	見当識障害がみられる
作り話はみられない	しばしば作り話がみられる
日常生活に支障はない	日常生活に支障をきたす
極めて徐々にしか進行しない	進行性である

認知症早期発見の目安

複数の項目に当てはまるようでしたら、病院や地域包括支援センター等の専門機関にご相談ください。

- 物を置いたり、しまったりした場所を忘れ、いつも探し物をしている。
- 約束の日時や場所を間違えるようになった。
- 薬の飲み忘れ、飲み間違いがある。
- テレビ番組の内容が理解できなくなった。
- ささいなことで怒りっぽくなった。
- 一人になると怖がりたり、寂しがったりする。
- 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった。

早期発見と早期診断が必要な理由

- ☆ 治る病気や一時的な症状の場合もある。
- ☆ 薬で進行を遅らせることができる。
- ☆ 健康な時間を長くすることができる。
- ☆ 認知症の経過、症状は人によって違うので、早期に専門家と信頼関係を築くことが大切。



9月21日は「世界アルツハイマーデー」です

1994年9月21日、スコットランドのエジンバラで第10回国際アルツハイマー病協会国際会議が開催されました。会議の初日であるこの日を「世界アルツハイマーデー」と宣言し、アルツハイマー病への認識を高め、世界の患者と家族に援助と希望をもたらすことを目的としています。



あんしん見守り

ネットワーク

9/19(木)

13:00~15:00

東伊豆町内 (奈良本地区、稲取地区)

声掛け訓練を実施します

認知症があっても、病気や障害があっても、住み慣れた東伊豆町でその人らしく暮らしていける、そのような地域づくりを推進しています。

その活動の一環として、毎年9月に町民の方や町内のスーパー、商店、金融機関、コンビニエンスストア等で働く方を対象に「あんしん見守りネットワーク声掛け訓練」を開催しています。

認知症の方への声の掛け方を広く学んでいただくことを目的に、高齢者役の介護事業所スタッフが地域を廻ります。

皆さんも声掛け訓練に参加し、安心の町づくりのため「わたしにできること」を行っていきませんか？

※当日は高齢者役のスタッフが
地域内、地域の金融機関や商店
等を廻りますので、
積極的な声掛けを
お願いします！

認知症初期支援相談窓口

地域包括支援センター

☎95-11106